

## みずほマーケット・トピック(2014 年 2 月 28 日)

## 週末版

## 内容 1. 為替相場の動向

## 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

## 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に下落する展開。週初 24 日に 102 円台半ばでオープンしたドル/円は、本邦の輸入企業によるドル買いに一時週高値となる 102.68 円をつけたが、その後は新規材料に乏しく、102 円台半ばで上値の重い展開。25 日は、中国人民銀行による元安誘導観測を受けて人民元が大幅下落し、同国不動産市場に関する懸念等も背景に中国株が急落すると、リスク回避姿勢の動きが強まり、米 2 月消費者信頼感指数の悪化も相俟って、ドル/円は 102 円近辺まで値を下げた。26 日は、月末絡みの実需の売買が交錯する中で、ドル/円は 102 円台前半で揉み合う展開。27 日、ウクライナ情勢が再び緊迫化したことを背景に円買い戻しが強まると、ドル/円は一時週安値となる 101.72 円をつけた。しかしその後はイエレン FRB 議長による米上院議会証言がややハト派と捉えられ、株が上昇するとリスク回避姿勢の後退からドル/円は 102 円台前半まで買い戻された。本日はウクライナ情勢への懸念から再び 101 円台後半まで下げている。
- ・今週のユーロ/ドル相場は下落。週初 24 日に 1.37 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、独 2 月 Ifo 景況感指数の強い結果を受けて一時週高値となる 1.3772 をつけるも、6 日の ECB 理事会での追加緩和観測が高まる中で積極的に買い進む向きも少なく、1.37 台前半で動意に乏しい展開。25 日に発表された独 10~12 月期 GDP は市場予想と一致したため、反応は限定的。新規材料に乏しい中で、ユーロ/ドルは 1.37 台における狭いレンジで推移した。26 日は、月末絡みのドル買いや米 1 月新築住宅販売の良好な結果を好感したドル買いにユーロ/ドルは 1.36 台後半まで下落。27 日にはウクライナ情勢が再び緊迫化し円買い戻しが強まると、ユーロ/円の下落に連れてユーロ/ドルは一時週安値となる 1.3643 をつけた。だが、その後は実需のユーロ買いが散見されたことに加え、イエレン議長証言を受けた株価が上昇する中でリスク回避志向の後退もあって 1.37 台前半まで値を戻した。本日にかけては、今晚にユーロ圏 2 月消費者物価指数(HICP)や 1 月失業率の発表を控え、ユーロ/ドルは 1.37 台前半で方向感に乏しい値動きとなっている。

## 今週のおもな金融市場動向

|              |          | 前週末       | 今 週       |           |           |           |
|--------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|              |          | 2/21(Fri) | 2/24(Mon) | 2/25(Tue) | 2/26(Wed) | 2/27(Thu) |
| ドル/円         | 東京9:00   | 102.33    | 102.54    | 102.52    | 102.16    | 102.31    |
|              | High     | 102.83    | 102.68    | 102.63    | 102.61    | 102.45    |
|              | Low      | 102.27    | 102.17    | 102.01    | 102.10    | 101.72    |
|              | NY 17:00 | 102.50    | 102.50    | 102.24    | 102.34    | 102.12    |
| ユーロ/ドル       | 東京9:00   | 1.3721    | 1.3738    | 1.3734    | 1.3746    | 1.3682    |
|              | High     | 1.3759    | 1.3772    | 1.3768    | 1.3757    | 1.3727    |
|              | Low      | 1.3702    | 1.3708    | 1.3715    | 1.3662    | 1.3643    |
|              | NY 17:00 | 1.3737    | 1.3735    | 1.3746    | 1.3687    | 1.3709    |
| ユーロ/円        | 東京9:00   | 140.47    | 140.80    | 140.83    | 140.44    | 139.98    |
|              | High     | 141.29    | 141.04    | 140.96    | 140.78    | 140.21    |
|              | Low      | 140.33    | 140.33    | 140.14    | 139.66    | 138.80    |
|              | NY 17:00 | 140.84    | 140.68    | 140.43    | 140.10    | 140.00    |
| 日経平均株価       |          | 14,865.67 | 14,837.68 | 15,051.60 | 14,970.97 | 14,923.11 |
| TOPIX        |          | 1,222.31  | 1,219.07  | 1,233.66  | 1,225.35  | 1,217.35  |
| NYダウ工業株30種平均 |          | 16,103.30 | 16,207.14 | 16,179.66 | 16,198.41 | 16,272.65 |
| NASDAQ       |          | 4,263.41  | 4,292.97  | 4,287.59  | 4,292.06  | 4,318.93  |
| 日本10年債       |          | 0.60%     | 0.60%     | 0.59%     | 0.59%     | 0.59%     |
| 米国10年債       |          | 2.73%     | 2.74%     | 2.70%     | 2.67%     | 2.64%     |
| 原油価格(WTI)    |          | 102.20    | 102.82    | 102.05    | 102.59    | 102.40    |
| 金(NY)        |          | 1,323.60  | 1,336.60  | 1,341.60  | 1,328.00  | 1,331.80  |

## ドル/円相場の動向



## ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 来週にかけての米経済指標では、3月7日(金)の2月雇用統計に注目が集まる。今のところ3月のNFPは前月比15.0万人増と伸びが加速すると予測されているものの、3か月連続で予想を大きく下回るようであれば市場の雰囲気も変わる可能性がある。先行計数を確認しておく、2月ニューヨーク連銀製造業景気指数、2月フィラデルフィア連銀製造業景気指数の雇用項目はともに前月から低下している。そのほかには、3日(月)に2月ISM製造業景気指数、5日(水)には2月ISM非製造業景気指数の発表があるほか、民間部門の雇用に関し、同じく5日(水)に2月ADP雇用統計の発表が予定されている。そのほか、今晚には2月シカゴPMI、6日(木)に1月製造業新規受注などの発表が予定されている。金融政策に関しては、5日(水)に次回FOMC(3月18～19日)の討議資料となるページブックが公表される。要人発言では、6日(木)にダドリー・NY連銀総裁とプロッサー・フィラデルフィア連銀総裁の講演等が予定されている。
- 欧州では、6日(木)にECB理事会が開催される。2月のECB理事会では現状維持が決定されたものの、理事会後の会見においてドラギ総裁は「本日行動しないと決定したのは、状況の複雑さや一段の情報収集の必要性和関係がある」、「3月会合時には初めて2016年の見通しが含まれ、それは我々の分析・情報における極めて重要な変化となる」と述べた。2月初旬から足許までに発表されたユーロ圏経済指標をみると、市場予想に届かないものが多く、悪い内容が優勢である。もちろん今晚発表されるユーロ圏2月消費者物価指数(HICP)及び1月失業率が本丸だが、HICPに関しては市場では前年比0.7%上昇と過去最低を更新するとの見通しにあり、緩和観測が高まる展開になりそうである。また、今会合では2016年見通しも明らかとなるが、これが1.5%未満に設定されると共に、追加緩和に至る流れが最も想像し易い。なお、27日のフランクフルト講演でドラギ総裁は「行動する準備はできている」と述べており、やはり追加緩和に構えるべきに思える。

|          | 本 邦                          | 海 外                                                  |
|----------|------------------------------|------------------------------------------------------|
| 2月28日(金) | -----                        | ・米10～12月期GDP(暫定推定値)<br>・米2月シカゴ購買部協会景気指数              |
| 3月3日(月)  | ・10～12月期法人企業統計<br>・2月自動車販売台数 | ・米1月個人所得・消費<br>・米2月ISM製造業景気指数                        |
| 4日(火)    | ・2月マネタリーベース                  | -----                                                |
| 5日(水)    | -----                        | ・米2月ADP雇用統計<br>・米2月ISM非製造業景気指数<br>・米地区連銀経済報告(ページブック) |
| 6日(木)    | -----                        | ・米1月製造業新規受注<br>・ECB理事会(フランクフルト)                      |
| 7日(金)    | ・1月景気動向指数(速報)                | ・米2月雇用統計<br>・米1月消費者信用残高<br>・米1月貿易収支                  |

### 【当面の主要行事日程(2014年2月～)】

欧州中銀理事会(3月6日、4月3日、5月8日)  
 日銀金融政策決定会合(3月10～11日、4月7～8日、4月30日)  
 ユーロ圏財務相会合/EU経済・財務相理事会(3月10～11日、ブリュッセル)  
 米FOMC(3月18～19日、4月29～30日、6月17～18日)  
 EU首脳会議(3月20～21日、ブリュッセル)

以 上

国際為替部  
 マーケット・エコノミスト  
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です  
<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

| 発行年月日       | 過去6か月のタイトル                                            |
|-------------|-------------------------------------------------------|
| 2014年2月26日  | 欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～                               |
| 2014年2月25日  | 佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～                              |
| 2014年2月24日  | G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて                                   |
| 2014年2月21日  | ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて                        |
| 2014年2月20日  | 相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～                           |
| 2014年2月19日  | 日本化を否定する独連銀理事講演の読み方                                   |
| 2014年2月18日  | 本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」                           |
| 2014年2月14日  | 週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か?～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)         |
| 2014年2月13日  | 混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～                          |
| 2014年2月10日  | 基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～                          |
| 2014年2月7日   | 週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)                      |
| 2014年2月6日   | 「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～                         |
| 2014年2月5日   | 円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～                           |
| 2014年2月4日   | ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～                         |
| 2014年2月3日   | ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか                        |
| 2014年1月31日  | 週末版                                                   |
| 2014年1月30日  | 欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて                             |
| 2014年1月28日  | 最近の日経平均株価の下落などについて                                    |
| 2014年1月27日  | 新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて                            |
| 2014年1月24日  | 週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)                  |
| 2014年1月23日  | 日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～                         |
| 2014年1月22日  | IMF世界経済見通し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10～20%～                       |
| 2014年1月21日  | BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について                             |
| 2014年1月20日  | 最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について                        |
| 2014年1月17日  | 週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)                      |
| 2014年1月16日  | 燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態                                |
| 2014年1月15日  | 円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～                          |
| 2014年1月14日  | 潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～                            |
| 2014年1月9日   | 週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に傾倒しているECB。政策変更のトリガーが視界不良に～)     |
| 2014年1月8日   | ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～                            |
| 2014年1月7日   | 2014年の円相場の見通し、論点おさらい                                  |
| 2013年12月27日 | 週末版                                                   |
| 2013年12月26日 | 2013年を終えて～プラザ合意以来の動きに挑む2014年～                         |
| 2013年12月20日 | 週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)                    |
| 2013年12月19日 | FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～                           |
| 2013年12月18日 | ユーロ圏労働コストから聞こえるデフレの足音                                 |
| 2013年12月17日 | 「アスムセンなき政策理事会」を考察する                                   |
| 2013年12月16日 | 最近の相場をどう解釈すれば良いのか                                     |
| 2013年12月13日 | 週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウェイト問題などについて)                    |
| 2013年12月10日 | 米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～                          |
| 2013年12月9日  | 米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて                          |
| 2013年12月6日  | 週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)                        |
| 2013年12月5日  | 直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感                            |
| 2013年12月4日  | 緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～                              |
| 2013年12月3日  | 103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える                             |
| 2013年12月2日  | ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～                            |
| 2013年11月29日 | 週末版                                                   |
| 2013年11月27日 | ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～                            |
| 2013年11月26日 | ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて                               |
| 2013年11月25日 | ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか                                  |
| 2013年11月22日 | 週末版(年金運用改革に係る雑感などについて～インフレ対策というよりも、諸外国対比の是正が主眼～)      |
| 2013年11月20日 | 本邦10月貿易統計などについて                                       |
| 2013年11月19日 | 最近の欧米資本フローから見る為替相場                                    |
| 2013年11月18日 | 再び挑むドル建て日経平均「150ドル」の壁                                 |
| 2013年11月15日 | 週末版(ユーロ圏7～9月期GDPなどについて～今後の焦点は加盟国間の成長率格差に～)            |
| 2013年11月14日 | 衆院解散表明から1年～「良いとこ取り」から「平常運転」へ～                         |
| 2013年11月13日 | バイトマン独連銀総裁による国債リスクフリーの否定を考える                          |
| 2013年11月12日 | ユーロ圏の主導するグローバルインバランスの拡大                               |
| 2013年11月11日 | 11月ECB理事会について～ドラギ・ブットの芽生え?～                           |
| 2013年11月8日  | 週末版                                                   |
| 2013年11月7日  | 生保下期運用計画などからみる円相場の今後                                  |
| 2013年11月6日  | 欧州委員会秋季経済見通し～不安な内需主導シナリオ～                             |
| 2013年11月5日  | ECB理事会プレビュー～11月は現状維持も論点は多数～                           |
| 2013年11月1日  | 日銀金融政策決定会合を終えて～市場出身審議員による警鐘は重要～                       |
| 2013年10月30日 | ノボトニー発言の読み方などについて                                     |
| 2013年10月29日 | 2014年、ユーロ圏銀行同盟の一里塚に終む不安                               |
| 2013年10月28日 | 低下する円相場のボラティリティとユーロ/ドルの警戒サイン                          |
| 2013年10月25日 | 週末版(ユーロ圏固有のユーロ買い要因を考える～過剰流動性減少やドイツ市場の活況～)             |
| 2013年10月22日 | Jカーブ効果を諦める時なのか?                                       |
| 2013年10月21日 | 勢いづく「敵失のユーロ高」の行方                                      |
| 2013年10月18日 | 外貨準備の民間委託報道などについて～「外貨準備の増加」は良いことか、悪いことか～              |
| 2013年10月11日 | 『2013年秋季IMF国際金融安定性報告書』について～分断化(fragmentation)の計量分析など～ |
| 2013年10月9日  | 2013年秋季IMF世界経済見通しについて                                 |
| 2013年10月8日  | 「火遊び」によるドル売りは買い場か                                     |
| 2013年10月7日  | 「2年で2%」の旗の降ろし方～日銀会合を終えて～                              |
| 2013年10月4日  | 週末版(2大ドル売り材料を受けた為替相場の現状～ユーロは長期平均からも上離れへ～)             |
| 2013年10月3日  | ECB理事会を終えて～芽生えるユーロ相場への高値警戒～                           |
| 2013年10月2日  | ECB理事会プレビュー～少なくとも期待するLTROアナウンス～                       |
| 2013年10月1日  | 日銀短観(9月調査)～業況改善の裏で気掛かりなコスト環境～                         |
| 2013年9月27日  | 週末版(対内証券投資を引き戻すカードはあるか～「期待に働きかける」局面を超えて～)             |
| 2013年9月26日  | 家計部門の外貨運用の現状と展望について                                   |
| 2013年9月24日  | 「決められないオバマ」はドル売り要因か?                                  |
| 2013年9月20日  | 週末版(13年6月末時点の本邦家計資産の状況～増加した内資性リスク資産、減少した外資性資産～)       |
| 2013年9月19日  | FOMC(9月17～18日開催分)を終えて～4つの論点で考える～                      |
| 2013年9月18日  | 欧米の証券投資動向と為替相場の関係などについて                               |
| 2013年9月17日  | 次期FRB議長人事を巡る動向について                                    |
| 2013年9月13日  | 週末版(「懐かし」のパターン)を警戒するユーロ相場～俄かに高まる南欧債利回り～)              |
| 2013年9月11日  | 何故ドル相場の上値は重いのか?～4つの理由で考える～                            |
| 2013年9月10日  | 日米金利差とドル/円相場について～2年「1%ポイント」が鍵～                        |
| 2013年9月9日   | 五輪開催決定、雇用統計、そしてFOMCの読み方                               |
| 2013年9月6日   | 週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は意外に近いか～)                        |
| 2013年9月5日   | 米貿易収支について～ドル買い相場の援軍に～                                 |